

演題募集要項

演題募集期間

2023 年 2 月 1 日～2023 年 3 月 10 日

テーマ

「ひとりひとりに心をこめて」

症例報告を特に歓迎します。どうやって治療したらよいか悩んでいる症例(未治療例)、治療に苦勞した症例、治療が非常にうまくいった症例など、どんな症例報告でも歓迎します。もちろん一般演題も歓迎します。主題は応募演題の中から選びます。シンポジウム、パネルディスカッションは一部指定演者の依頼を行いますが、応募演題の中からも選びます。

主題 1 治療に悩んだ症例・苦勞した症例－発育性股関節形成不全－

主題 2 治療に悩んだ症例・苦勞した症例－麻痺性股関節脱臼・亜脱臼－

主題 3 治療に悩んだ症例・苦勞した症例－ペルテス病－

主題 4 治療に悩んだ症例・苦勞した症例－大腿骨頭すべり症－

主題 5 治療に悩んだ症例・苦勞した症例－その他の疾患－

シンポジウム 発育性股関節形成不全(完全脱臼例)の観血的整復術－どこで成否が分かれるのか－

手術成績不良例がいまだに解決されていません。何が大切なのか、明らかにしたいと思います。

パネルディスカッション1 リーメンビュウゲルの適応－適用時期と適用条件－

新生児期の適用が議論になっています。また、全例適応とする考えに反対意見もあります。こうしたことについて、自由に意見を交わす場にしたいと思います。

パネルディスカッション2 乳児股関節検診－各地域の現状と将来構想－

検診システムが整っている地域がある一方で、整備が進まない地域もあります。現状を報告していただき、それぞれの地域での将来構想について意見を述べていただければと思います。

招待講演(予定)

Prof. Tae-Joon Cho (Seoul National University Children's Hospital, Korea)

Prof. Chia H Chang (Chang Gung Memorial Hospital, Taiwan)

Prof. Ting-Ming Wang (National Taiwan University Hospital, Taiwan)

演題応募方法

下記の演題応募例に従って、希望セッション、演題名、英文演題名、演者、所属、主演者の英名と所属の英名、抄録(400-800字)について Microsoft Word でファイルを作成し、添付ファイルとして下記メールアドレスまで送ってください。抄録の形式は特に指定しませんので、自由に作成してください。主題、シンポジウム、パネルディスカッションの中で、希望のセッションがあれば記載してください。

演題応募先： 第 62 回日本小児股関節研究会事務局

jphrs2023@ccaoc.jp

<演題応募例>

希望セッション

主題1

演題名

双頭型のペルテス様変形によるインピンジメントに対し鏡視下骨頭部分切除術が奏功した 1 例

英文演題名

A case of femoroacetabular impingement due to double-headed femoral head treated by arthroscopic partial resection of femoral head

演者

西須 孝 1、亀ヶ谷 真琴 1、都丸 洋平 1、柿崎 潤 2、及川 泰宏 2、安部 玲 2、佐久間 昭利 3、橘田 綾菜 4

所属

1 千葉こどもとおとなの整形外科、2 千葉県こども病院整形外科、3 千葉大学整形外科、4 東京女子医科大学八千代医療センター整形外科

主演者の英名と所属の英名

Takashi Saisu (Chiba Child & Adult Orthopaedic Clinic)

抄録

【はじめに】双頭型のペルテス様変形は、放置すると骨頭と臼蓋がインピンジし、著明な痛みと可動域制限を来すことがある。今回我々は、この変形に対し鏡視下に片方の骨頭を切除し、合併症もなく症状を改善できたので報告する。

【症例】14 歳女兒。左発育性股関節形成不全症で、1 歳半に他院で観血的整復術を受け、5 歳時に千葉県こども病院初診。6 歳時に Sakalouski Double Osteotomy、・・・中略・・・術後 3 年 6 か月まで経過観察しているが、合併症もなく経過良好である。

【考察】骨頭の部分切除は、残存骨頭の骨壊死や骨折のリスクがあるため、容易に決断できない術式である。外科医として技術的ピークを迎えた術者の判断が、運よくいい結果をもたらしていたが、再現性に関しては何とも言えない。